

第1回 名古屋市男女平等参画審議会（11期）

日時：令和5年8月29日(火) 午後3時00分から午後4時00分まで

場所：名古屋市役所西庁舎 12階 西12C会議室

出席者：名古屋市男女平等参画審議会委員 13名

杉野副市長、スポーツ市民局長、市民生活部長、男女平等参画推進室長

傍聴：1名

記者：0名

1 開会

2 副市長あいさつ

3 委員の紹介

各委員より自己紹介

4 会長・副会長の選出

互選により、会長に風間委員、副会長に新井委員を選出

（男女平等参画推進なごや条例施行規則15条）

5 議題

（1） 男女平等参画基本計画2025の推進状況について

（男女平等参画推進室長より説明）

質疑応答

【会長】

資料1-1、資料1-2について、ご質問やご意見がある方はよろしくお願ひしたい。

【委員】

資料1-2の目標4「市男性職員の育児休業取得率」について、現状値は48.3%と高い数値であるが、これは、育児休業に該当する人についての割合の数値なのか。また実際にはどれくらいの週数の育児休業をとっているのかわかるか。

【事務局】

こちらの育児休業取得率については、①育児休業、②産前8週・産後8週の間で職務専念義務免除等、③①及び②の組み合わせにより、週休日を除き20日以上取得した場合で、連続である必要はない。いわゆる育児休業そのものではないが、育児のために取った休暇となる。

【委員】

具体的にはどれくらいの日数をとっているのか。

【事務局】

人それぞれで1年間とる職員もいれば1か月の方、1週間の方、様々であり、また、市の職員のアンケートでは、連続した期間でなく取りたいという要望もあったため、状況に合わせて、その方の取りたい形で取っていただいているという現状になっている。

【会長】

取得率ではなく、取得期間やその分布についてどうなっているかということについてデータで出すことはできるのか。

【事務局】

まとめ方にもよるが、ある程度の分析はできると思うので、またデータをご提供させていただく。

【委員】

2点質問したい。1点目として、成果指標について計画策定時よりも、数値が下がった指標について、なぜ下がったのか理由を掘めているのか。2点目として、審議会委員の女性の割合を増やすための働きかけをしてきたにも関わらず、割合の数値が伸びなかったことについての理由は何か。

【事務局】

1点目について、明確な理由はなかなか掘めてはいないが、例えば乳がん検診の受診率については、コロナ禍で受診が全体的伸び悩み傾向にあったということを知っており、その影響を受けているのではないかなと思うが、一方で子宮がんの検診の受診率は上がっていることもあり一概には言えない。引き続き受診の勧奨をしたいとは聞いている。

男女の地位が平等と感じる市民の割合や仕事と生活のバランスが希望どおりであると思う市民の割合については、理由についてなかなかつかめていないが、男女の地位の格差については一朝一夕で市民の意識が変わるものではないと考えているので、引き続き粘り強くやっていく。

2点目について、審議会の委員については、毎年度女性委員の登用について働きかけを行っているが、例えば、昨年度働きかけた際には、医師や土木系といった専門分野の有識者といった、男性がもともと多い分野の方を委員にあてなければいけない分野は、働きかけがなかなか結果に結びつかなかった。こういった部分については、教育的なところの部分、学生の理系選択の段階といった、そういったところから啓発を進めていく必要があるが、なか

か進んでいない。

【委員】

達成した項目は、行政で動かせるもので着実に進んでいると思うが、意識に関しては属性をコントロールしないといけないのではないかと。例えば年代、年齢によって全然違う。学歴とか世帯収入とか細かくやると傾向がつかめると思うが、そこまで立ち入るのは難しいかもしれない。ただ、少なくとも年齢階層別には必要。調査をした時に、例えば年齢層が高いと結果が偏るという事はあると思う。

【会長】

意識については全体の数値をみるのが大切ではあるが、例えば年齢によってどのあたりが前回から変わったかということも見ていくと、今回の調査の数字の評価がもう少し詳しくできるという事にもつながるので、また検討していただけるとよい。

【事務局】

目標値としては全体で出しているが、基礎調査の際は年齢別に見ていくことも重要だと考えている。

【委員】

このテーマで2,000くらいのサンプル数だとどうなるかわからないが、地域ごと、例えば区ごとにみても面白いかもしれない。また、たまたま回答者に高齢者が多かったとか、年齢、対象といった属性など、バイアスがないか検証することも必要では。

アンケートに答える方について、特に紙媒体だと高齢者の方が答えることが多い。30～40代の方にはご回答いただけないことがあるので、政府の方でもネットに調査方法を切り替えている。回答を得たい層に、より答えていただけるような設計を考えていただきたい。

【会長】

第10回男女平等参画基礎調査の回答の集計方法について、いただいたコメントを踏まえ、現状値というところで、少なくとも年齢ごとでどのような推移があるのか、もしデータが出せたら、次回の審議会の時に検討していただければ。

【委員】

調査当時の年齢だけでなく、その世代にある程度傾向があると言われているので、そういった点も考えるとよいのではないかと。

【委員】

成果指標については重要であるが、現状値については、毎年調べられるものと、次回の基

基礎調査で調べられるものがあるという認識でよいか。

【事務局】

現状値が令和元年度になっているものは次の基礎調査で調べる項目となる。

【委員】

目標4の成果指標に、「仕事と生活のバランスが希望どおりであると思う市民の割合」があるが、現状値が下がっているのが気になる。この指標において「希望通りでない」ということは、「仕事が多すぎる」と思っている方もいれば、「仕事が少なすぎる」と思っている方の両方が含まれているのではないかと。調査時はコロナ禍の時期だったと思うが、一部の業界では働きたくても働けないといった方もいたと聞いている。そういったことも影響しているのではないかと。

【事務局】

この設問については、そこまで細かく定義して聞いていないところがあるため、回答者の主観での判断も影響しているかもしれないが、はっきりとはわからない。

【委員】

この項目については、仕事とプライベートと満足度という観点でよいのではないかと。

【委員】

「仕事と生活のバランスが希望どおりであると思う市民の割合」の数値が下がっている一方で「女性の活躍推進企業認定・認証数」等は増えていっていることで違和感がある。例えば、データの見せ方として、制度が増えていた企業の中ではどう思われているのかということ等を示せると、データに相関が出るのではないかと。

【委員】

それに関してもコントロールが必要だと考えられる。例えば正社員と専業主婦では属性も違うため、項目間でパラレルに比較するのは難しいと思われる。属性をコントロールして丁寧に見ていく作業が必要ではないかと。

【会長】

女性の活躍推進企業と認定された企業の中で、実際にワーク・ライフ・バランスが希望通りになっている方の割合等について、もし調査できれば、その効果が検証できるのではないかと。なかなか難しいとは思いますが、ケーススタディ的にやれると面白いかもしれない。

(2) 第10回男女平等参画基礎調査について

(男女平等参画推進室から説明)

質疑応答

【会長】

スケジュールとしては、第10回の基礎調査の実施にあたり、審議会から項目等について意見・要望等を出せるのは、今回と次回の審議会の2回ということによいか。

【事務局】

今回と次回の審議会では調査票について確定したいと考えている。

【会長】

部会を設置して、骨子等をつくることになるが、本日の段階でお気づきの点があれば言っていただき、次回の審議会の時にも、骨子をもとに検討いただく機会を作れると思う。

【委員】

調査の方法についてはどうなる予定か。

【会長】

前回の調査は郵送配布郵送回収だったということだが、第10回の調査については、まだ決まっていないということでもいいか。

【事務局】

まだ決まってはいるないが、最近の市の調査ではウェブで回答できるものも増えているので、ウェブでの回答もできるよう検討していきたいと考えている。

【会長】

個人的には、両方選択できる方がいいのではないと思う。紙の方が答えやすいという方もいれば、記入して封筒に入れて投函するという手続きをすることが難しいという生活環境の方もいると思うので、可能ならば両方選べるようにしてもらえるとよい。

【事務局】

そのような方向性で検討してまいりたい。

【委員】

プレゼント等はあるのか。例えば、何かアクセスして抽選で当たるかもしれないというもの。

【事務局】

民間ではそういった例もあるかもしれないが、これまで10回やってきて、そういったことはなかったので、ネット回答可能にしたり、設問数を調整するなど工夫していきたい。

【委員】

ウェブアンケートと紙で答えるアンケートでは回答数が異なってくる。紙で回答する場合30問はかなりの労力であるが、ウェブでの回答であれば30問あっても、ボタンを押していってどんどん進んでいける。両方で回答ができるのであるならば、工夫しないといけないのではないか。

【委員】

アンケートを取る際に属性も非常に重要であるという話があったと思うが同意見である。紙媒体だと年配の方が答える割合が多く、30代、40代の方のデータが少ないという事になると思うが、ウェブ回答にすることというのは、その属性データも回収ができるという期待が大きいという理解でよいのか。

【委員】

ウェブ回答だと立ち入ったことが聞けるかどうかはわからないが、調査の趣旨をしっかりと理解していただければ、ウェブ回答でも問題はないと考える。紙の方でも聞いていただいているので、例えば順番を最初から学歴を出すのではなく、うまく紛れ込ませるといったように工夫するなど、やり方はあると思う。

【会長】

今質問票を見て、コメントをするということはなかなか難しいかなと思う。たたき台をつくり、また皆さんに見ていただき、コメントをして、必要に応じて修正をしていくということと、調査方法については、郵送というのが今までのやり方であったが、ウェブ上でも回答できる方法について皆様から頂いた意見とするということで本日の時点はよろしいかと思う。

(3) 部会の設置と付議事項について

(男女平等参画推進室から説明)

質疑応答

【委員】

次の1月の審議会場でどこまで決めるのかにもよると思うが、調査票について、民間の立場、地域にいる人間の立場からすると違和感がある、又は誤解されるのではと感じた場合に、思ったことを申し上げる機会を1月の審議会よりも前にいただけるとよいと思う。たたき台について会議より先にメール等で送っていただくなどしていただければ、次の審議会

での意見等もよりよいものになるのではないかと考えているがいかがか。

また、意見を聞くやり方として、オンライン会議も活用すると良いのでは。

【事務局】

皆様から事前にご意見をいただける形で進めてまいりたい。

【会長】

できるだけ丁寧なプロセスで皆さんの意見を反映させた形で調査をできたらいいと考えている。部会の設置と付議事項について承認いただけるということでよいか。

（委員から異議なし）

【会長】

部会長については、全体会とのスムーズな連携を行うために、僭越ながら私が務めさせていただきたいと思うが、よろしいか。

（委員から異議なし）

5 その他 今後のスケジュールについて

（事務局説明）

（委員から意見・質問なし）

【会長】

皆様からいただいた意見を、部会の中でできるだけ反映させ、また次の審議会までに意見をいただき、反映していければと考えているので、よろしくお願いいたします。

では、本日の議事は以上となる。

6 閉会